

冬の雑木林 その① 山のお手入れ

深大寺自然広場、東樹林。手入れをされなくなって何十年たつのでしょうか。クヌギ・コナラ・シデなどの広葉樹が大木になり、春から初冬まで、林床に光が入るのを妨げています。ここは東京都の管理になっているため、むやみに樹木を伐採することはできません。そこでカニ山の会が枝下しに挑戦。もっと光を！！

1/10(土) 12月に続く今回は以前から目をつけていたコナラの太い枝を伐採することに決定。大きな枝を安全に切り落とすためには他の2本の木にロープを渡し、ゆっくり着地させるようにしなければいけません。

①先ずはリーダーの小島さんからロープの掛け方を教わります。

②途中まではハシゴを使用して登るためハシゴを固定

③ハシゴより上に登るにはスリングなどを使い、足を掛けていきます。

④10m以上も登ったでしょうか。伐採される枝を吊るするためのロープをかけ、そのロープを他の木にわたします。安全確保のためのロープなど何本ものロープを操るのはなかなか大変。見上げるメンバーも真剣な面持ち。



⑤樹上での伐採作業は姿勢の確保がむずかしく困難をきわめました。さすが小島さん、プロ顔負けのがんばりです。

⑥残念ながら写真ではわかりにくいと思いますが2本の樹木にロープがかけられ、伐採された枝がゆっくり着地していきます。

ヤブコウジの赤い実
—昨年
笹刈りをした場所に
沢山出てきました。



Contents

1 頁…冬の雑木林 その①

2 頁…多摩川今昔
活動報告:
カニヤマの会
入間樹林の会

3 頁…活動報告:
環境モニター

4 頁…市民活動カレンダー

3/15 交流会お知らせ

多摩川今昔⑤

地元生まれの戸部先生。ちょっと昔の調布のようすを連載していただいています。

○ニヶ領上河原堰（中之島ダム）

江戸時代、現在の神奈川県の水と新田開発のために作られた人口用水の取り入れ口で、慶長16年（1611）に完成。当時川崎領と稲毛領の二つの領にまたがって流れたことからこの名が生じた。

資料によると当初は竹の蛇籠を積み上げ、流れをせき止め、用水に導いたとある。現在のコンクリートのダムは昭和46年（1971）台風によって決壊した後、作り直した物で、それまでは棚田のように階段状の升が並び、最上段は幅広く、水門まで自由に歩くことが出来た。

水量が増すと堰を超えた水が、升の上を滝のように水煙を上げて落ちる様は、豪快そのもので、瀑布の音は甲州街道からも聞こえた。水位が下がった後には、升の中に多くの魚が取り残されており、これを採りに行くのも子供たちの楽しみの一つだった。

当時の堰は水位が深く、水門施設の上から飛び降りても川底に達することが無く、ここでの水泳は禁じられていたが、堰で水流が留められており、水泳には最適の場所だった。

現在は最新式の魚道が2本設置されているが、以前は水門の脇に一本だけで、現在のようにならかな物でなく、階段式の升の一部がジグザグにカットされた形で、子供らの中には最上部に堰板を入れて水をせき止め、魚道を上っていたアユやウグイなどの魚を捕まえていた。（戸部英貞）

ちょうふ あちこち



1月10日
今年も佐須の畑でドンドン焼きが行われました。懐かしい焚き火の煙。

活動記録コーナー

◆カニ山の会

12/13（土）晴れ 参加者6名

○コナラの高枝伐採

（一面参照）

<会メンバーの感想>

- ・公園の整備は大変であり、園内に高所作業車が通行できる通路が整備されているのが理解できた。
- ・高木の枝切りを初めて見て興味深かった。小島さんの技に拍手。
- ・ロッククライミングの技術が必要なのが判った。大変な作業であり、林業をやる人が少なくなっているのが理解できる。
- ・ロープワークはサポートする人も技術が必要だと感じた。
- ・東樹林の1/4くらいを伐採し、実生による更新を行うことが望ましいが、立木は財産として登録されているため、現状では難しい。林床に光を入れるために、春まで枝切りを行いたい。（活動報告より）

1/10（土）晴れ時々曇り 参加者6名
前回同様、林床の光環境の改善のため高木の枝きりを行った（No.1004のイヌシデ）。

太い材は1m程度に玉切りし、今後、柵、階段などに使用予定。

ホームページで「自然だより」を見た、という小川さんが体験作業に来られ、一緒に作業を行った。

◆入間・樹林の会

12月21日は、例年どおりお楽しみ会でした。

作業は、通路に伐採枝のチップを少し厚く敷いただけで歩く感触は全く違います。チップからも木の香りが漂ってきました。

風が強い日でしたが、気温はそれほど低くなかったので落ち葉だめ横での宴会は、メンバーの新たな特技の紹介もあり1年間のご苦労さん会として楽

しいものでした。やはり、屋外とくに森の中での食事は格別でした。（安部）



↑ 木漏れ日の中での宴

→ チップのしかれた小道



冬の多摩川で野鳥の観察



↑ハヤブサ…高圧線鉄塔上でじっとしています。飛び姿はいかにもスピード感があって優雅。

→イソシギ…堀の所で尾を上下に振りながら餌をあさる姿が可愛い。名前もすてき。

◆調布市環境モニター活動。参加者9人。

1/11(日) 多摩川で野鳥観察をしました。当日は好天に恵まれたのですが鳥の種類はやや少なく、写真の他にはセグロセキレイ・ダイサギ・アオサギ・カイツブリ・モズ・カワラヒワなど 10数種を観察することができました。



◆環境モニター

12/6(土) 晴 参加者 11人

今日の環境モニターの日程は都立水生植物園とその隣接する国指定史跡の神代城址を巡るルートだ。この辺りの地形は独特で国分産線が入り組んでいてその谷間に水生植物園がある。植物園になる前は水田で、この谷間には湧水があちこちから湧き出て冷たい水が水田には適さなかった、と農家の方が昔話されていたことを思い出した。湿地に適した植物の菖蒲などは冬の今は咲いていないが、もみじが散るのを惜しむかのように美しく紅葉し私たちの目を楽しませてくれた。水生植物園から斜めに林の中を登り神代城址に行くが、ここが都心から20キロしか離れていない所かと思うほど静寂に包まれている。数分ほど歩くとパッと視界が広がり神代城址にたどり着く。今は堀と土台し

か面影を残さないが、今我が町調布にも歴史あるこのようなところがあつたのかと少しばかり感激する。

こうして歩いて思うのはやはり水生植物園と神代城址はセットで訪れるのがいい。水生植物園の湿地や湧水の流れの中にけなげに生きる動植物に心を和ませ、神代城址の森と歴史を肌を感じるができるからだ。調布に住みまだここを知らない方には是非一度訪れてみることをお勧めしたい、と思った今日のルートだった。(佐久間)



←水生植物園ではこの時期でもイナゴが沢山日向ぼっこ



調布の自然 鳥 編

冬の鳥と地鳴き

冬の雑木林は木々の葉が落ち見通しがあり、春よりも鳥を見つけ易くバードウォッチングには向いています。静かな木洩れ日の落ち葉を踏みしめ歩いていると、どこからともなく「チッ・チチッ」や「じっ・じじっ」という“鳥の地鳴き声”にあたりを見回すと…。

木々を枝から枝へ移動している小鳥はカラ類の混群か、はたまた落ち葉をハデにひっくり返して食事の真っ最中なのは寒い国から渡ってきたツグミの仲間かな。

でもビギナーには初夏のサエズリと違い、簡単に識別できません。そこで今回は市内でも見かけることの多い“鳥たちの地鳴き”を聴きつつバードウォッチングしましょうか。

●ウグイス=チャッチャッと強く鳴く/この声を基準にしましょう

●シジュウカラ=ツピツ・ツイーッ・ジュクジュク

●ヤマガラ=ニーニーツェーツェーと、のんびり鼻声

●エナガ=チッチッと小さい声・ジュリジュリリとも(淡いピンク色と柄杓体型が可愛い)

●ホオジロ=チチツまたはチチツ (ススキ等の穂に実った種子が好物)

●コゲラ=ギ・ギィ(小型のキツツキ)

※以下は冬鳥として渡来する種類です

●ショウビタキ=ヒッヒッとカッカッ (紋付袴で礼儀正しくお辞儀する)

●アオジ=チッチッと強く鳴く(黄色い胸に縦班)

●ツグミ= キックキツツやクアックアツ (近年見かける数が少なくなった)

●アカハラ=驚いて飛び立つときにキョキョキョ

●シロハラ=ジュジュジュ・ビビビと、けたたましく鳴くことも

実際の声と文字は感覚的なもので必ず一致しないことが判ったあなたはもう立派なトリ博士です。(里)

※各種図鑑を参照しました

☆ 環境市民 エコ活動カレンダー & おしらせ ☆

★★★ 全ての会でメンバー随時募集中! ★★★

◆カニ山の会

※原則毎月第2土曜に東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所(野草園横)へおいで下さい。年会費500円+保険料

● 2/14 (土) 10:00~12:00
/活動内容: 春を待つ虫の観察会。終了後、懇親会を予定しています(~15:00)。材料・食器持ち寄り。

● 3/14(土) 10:00~12:00
/ 樹林の保全活動、高枝伐りなど。

◆入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に活動していません。参加希望の方は直接入間地域福祉センターへおいで下さい

●2/15 (日) 9:30~12:00

●3/15 (日) 9:30~12:00

/ 樹林の保全活動。

問合せ 環境政策課

または緑と公園課 481-7083

◆若葉の森の会

※原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所入間地域福祉センターへおいで下さい。

●2/8 (日) 10:00~12:00

●3/8 (日) 10:00~12:00

活動内容: 樹林の保全活動

問合せ: 緑と公園課

042-481-7083 まで

◆環境モニター

2月の活動はお休みです

3/7 (土) 植物観察(場所未定)

問合せ 環境政策課

042-481-7086 まで

ちょうふ環境市民会議 設立 & 交流会

「私からはじめるエコライフ~みんなで得する省エネ」

日時: 2009年3月15日(日)

場所: 調布市文化会館たづくり大会議場(12階)

開場: 12時~ 参加費: 無料

<プログラム>

★12:00~ 情報バザール・各団体の交流&展示・紹介

★13:00~ ちょうふ環境市民会議とは 入会のおさそいほか

★13:30~ 設立記念ワークショップ 増原直樹氏(環境自治体会議)

主催: ちょうふ環境市民会議準備会

事務局: 調布市環境政策課 042-481-7086 (小松)

△△△ 春を待つ虫の観察会 △△△

冬のあいだ虫たちはどうしているの? みんな卵で春を待っている? そんなことはありません。寒くない所に隠れている虫や寒さに負けないで活動している虫もいます。カニ山の会では、深大寺自然広場(通称カニ山)の一部東樹林の保全維持活動をボランティアで行っています。平成21年2月は、冬の虫の暮らしについて勉強します。さあ、いっしょに冬の虫を探そう!

日時 2009年2月14日 10時~12時

場所 深大寺自然広場(通称カニ山) > 野草園前集合

講師 石川和宏(TVチャンピオン出場)

募集 小学生と保護者10組 参加費 1人200円

(小学校4年生以上は児童だけの参加も可)

持ち物 虫を観察するための蓋付きの透明な容器3個

(空きビンやプチトマトが入っているプラスチックの透明の容器など)

▲申込方法 以下の事項を記入しメールでお申し込み下さい

①氏名 ②年齢 ③住所 ④電話番号

▲申込宛先 mail: k2-kojima@khc.biglobe.ne.jp

主催: カニ山の会 (担当: 小島)

【編集後記】

布多天神の紅梅が満開となりあつという間に自然は移り変わります。2/1は深大植物公園近辺で同好の志と冬芽の観察会。寒さにふるえるこんな時期でも野外での楽しみは沢山あります。多摩川や国分寺崖線の雑木林など自然の残る調布ってすてき!(鍛冶)

インフルエンザ回避のために外出を控えては見たものの運動不足さみ。温暖化の気候変動を心配しながらも陽射しの暖かい日はうれしい。は~るよ来い。(江刺)



雨水
2月19日~3月5日
までのこの節気には雨や曇りが多くなり、冬から春へと季節が動きまわります。

市民発 ちょうふの自然だより

この「自然だより」は旧ちょうふ環境市民懇談会が発展的に解散しあらたに「環境市民会議」設立に向けて活動を継続したのを受けて、ちょうふ環境市民会議(準備会)広報部会が発行しています。

2009年1月から、これまでの毎月発行から隔月発行に変更しました。今後、ちょうふ環境市民会議の広報紙も発行の予定です。あわせてご愛読下さい。あなたの“ちょこっとエコ応援”をまっています。

発行: ちょうふ環境市民会議

連絡先: <http://ameblo.jp/kankyo-simin/> からどうぞ

このニュースレターは、環境と未来を考える会の協力で発行しています